

加盟団体 各位

大会におけるラケット検査について(財) 日本卓球協会
ルール審判委員会

1. 大会で接着剤テストを含むラケット検査を実施するかどうかは、大会組織委員会と審判長で決定する。
2. ラケット検査を行う場合、参加選手には事前に通知することが望ましい。
3. ラケット検査を実施する場合、検査専任者を定める。この検査担当者は、検査結果を審判長に報告し、その結果に対する最終判断は審判長が下すものとする。
4. ラケット検査を行う場所は、検査の秘密が守れる、公の目が届かない場所にある、換気の良い一室とする。
5. ラケット検査は、試合前テストを原則とする。しかし、審判長の判断で、試合後検査をすることがある。この場合、ラケットに違反が見つかったら、その選手には負けが宣告される。
6. 誰のラケットを検査するかは、審判長がタイムテーブルを用いてランダムに決めるものとする。
7. 検査対象となった選手は、試合開始予定時間10分前までに、選手自らが試合で使用する予定のラケットおよびスペアラケットを、ラケット検査室まで持参するものとする。
8. 検査ラケットは、検査終了後、審判長に検査結果と共に手渡され、試合開始前に担当審判員を経由して選手に返却される。検査でOKとなった場合、選手はその検査済みラケットで競技しなくてはならない。このルールに違反した場合は、失格となる。
9. 検査結果で「違反」が発見された場合は、直ちにその結果は審判長に報告され、審判長はその旨を選手に伝え、別のラケットで試合に臨むよう伝える。違反ラケットは試合が終了するまで、審判長が保管し、試合に使用された別のラケットは、試合終了後、再度検査され、その結果が審判長に伝えられ、その結果により、審判長が試合結果に対して判定を下す。
10. ラケット検査では、1本のラケットに1台のEnezのみを使用するものとする。複数のEnezを使用して検査結果を比較するようなことを絶対にしない。ラケットから出るVOCガスは常に変化しており、複数のEnezを使用した場合それぞれ異なった結果が出る恐れがあり、無用な混乱を事前に防ぎ、選手に対するEnezの信頼性を失わせないようにすることが重要である。

【ラケット検査の項目】

- 1) ラケット本体(ブレード)及びラバーがJTTAあるいはITTFの公認を受けたものかどうか。
- 2) ラケットの両面の色が、赤と黒になっているか。
- 3) 打球に使用する面に貼られているラバーは、グリップを除くラケット本体の全面に大きすぎず小さすぎず貼られているか。(2mm程度の大小は原則OK)
- 4) ラケットにルールでは認められない特殊加工が施されていないか。
- 5) ラバーの厚さが接着層を含めて、最大4.0mmを越えていないか。
- 6) ラバー表面が平坦となっているか。(凹凸の差は最大0.2mmまで)
- 7) ラバー表面の光沢が基準を越えていないか。(光沢度計で24%以下)
- 8) Enezテストで、「赤ランプ」が点灯しない。

【ポランタリー検査】

選手が、試合とは別に、試合前に自分のラケットが規格に合致しているかを判定してもらう検査。この検査で規格違反が発見されても、処罰の対象にはならない。希望者が多い場合、その対応に苦慮するので、検査機器、時間、担当者などに十分に余裕があるときに実施すると良い。

以上